

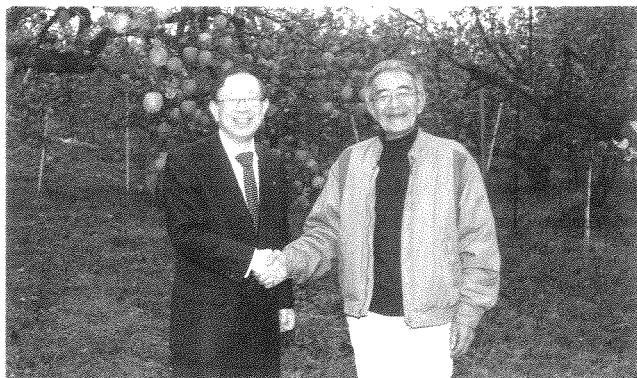
ら、韓国、中国からオーダーが殺到して大変な状況だと。それだけ韓国、中国は環境に関心があるのです。日本の農家、消費者の意識改革が必要ですね。

会 長 国策で大規模農業を指向しようという意見について、どう思われますか。

木村氏 あまりいいとは思いません。それよりも、大企業で退職を控えている人二千五百人から退職後何をしたいかアンケートを取ったところ、五百人は海外旅行、二千人は百姓をしたい、という結果が出たそうです。このことから分るように大規模化するよりも、このような希望を持つている人達が簡単に農業が出来るように農地法を改正した方がいいのではないかと思えます。彼らが農地を簡単に購入できるようにして農家を増やした方が、効果があると思います。さもないと、興味を持っている若者や農業をしたいと思ってる人が出来ないことになってしまふ。これはもったいない。大規模にしなくても何も問題ないのですから。大きくしてしまふからこそ効率を求め、農薬等を使用しなければならなくなるのです。大きければ、たくさん作物が採れ、儲けられる気がしますが、先程から申しているように

にそうとは限らないのです。小ざければ、目が届き、農薬などを使わない、消費者が求め、売れる作物が出来るのです。

会 長 税理士が関わる地元中小企業は今、とても苦しい状況にあります。木村さんのお話をお聞きしますと、東北の場合、



り枝である農村がなければ、幹である都市は育たない。それに都市の人たちは気付くべきであり、農家の人たちも考えなければなりません。

会 長 農政はどこで間違ったのでしょうか。

木村氏 現場を知らない政治家や役人がいたからのような気がします。政治、行政ならでは苦勞も分りますが、もう少し現場を知ってほしいものです。例えば、キャベツが採れすぎ、元がとれないので、収穫せずにそのまま耕す映像をみたことがあり。一箱五百円が三百円、百円に暴落する、それでは売っても赤字になる。農家の方はおそらく原価を本当に割るかどうかも知らずに、行政の言うことを真に受け、耕したのだと思えます。私が調べたところ、三十円を下回らなければ、原価割れはしなかったのです。当時、百円と言っていましたので、売れば儲けはあったのです。ですから、農家だって原価計算、記帳が非常に大切なことなんです。

司 会 農業の法人化について、どのようにお考えですか。

木村氏 私は、子供たちに給料を払うには法人化した方がいいと思ひ、そのようにしました。結果的に、それぞれが責任を持

つようになった気がします。また、法人だと、今の若者たちは安心して農業に携われるような気がします。更に、Aさんは機械、Bさんは栽培などのように得意分野を分担することにより相乗効果も生まれると思います。

会 長 一般的に、株式会社化と言うと大規模化と同一視するようですが、そうではないのですね。

木村氏 そうです。あくまで利益を追求するのが法人なのです。だからといって、儲け第一主義で走れとは言っていません。経営継続可能体制、金融機関からの融資目的、気の合った人たちが集まったの百姓ビジネス、このような観点から農業法人はいと思います。

会 長 しかし、海外から安いものが入ってくるジレンマについてはどうお考えでしょうか。

木村氏 これは消費者意識を改革していくしかないと思います。今、大都市では家庭菜園がブームになっています。七年程かかりましたが、このブームを作ったのは実は私なのです。自分で作る楽しさや過程により、農薬等にも関心を持つ、これはいいチャンスです。反面、農村の崩壊が進んでいる、超アンバランスなんです。これからは、流通



を考えなければいけないと思います。農業には、莫大な設備投資は必要ありません。

司 会 最後に、税理士または税理士会に対して一言お願いします。

木村氏 先ほど言ったように、これからの農業は原価計算や税金計算のための記帳が大事です。私もかつて借入金返済を経費に入れて申告して、税務署から指摘を受け修正申告したことがあります。このように会計や税務の勉強も大事ですので、税理士さんには農家への指導をよろしく願います。

司 会 本日はありがとうございます。

(注一) F1 一代雑種 特定の性質を持つことを目的にして人為的に開発された一代限りの種子等

(注二) 緑の革命 一九四〇年代から六〇年代にかけて高収量品種の導入や化学肥料の大量投入により穀物の大量増産を達成したこと

(注三) COP II conference of the Parties (国際条約の締結国が集まって開催する会議のこと)